



「救急フェア2012」の開催

(気仙沼保健福祉事務所)

9月9日の「救急の日」を前に、9月8日(土)イオン気仙沼店において、「救急フェア2012」を開催しました。当日は、気仙沼市唐桑町で発生した救急事故において迅速かつ的確な応急対応と手当を行った、気仙沼西高等学校三年生の熊谷寿人さんに救急協力者表彰が行われたほか、気仙沼市立条南中学校の茂木瑞樹さんと熊谷優希さんが一日救急隊長に任命され、救急医療の普及啓発活動でご協力をいただきました。

また、救急隊員による心肺蘇生の実技講習や当所保健師による健康相談、献血等を実施しました。特にホヤぼーやの風船配布や屋外での消防車両との記念撮影コーナーは、子どもたちの人気を博しました。



(ホヤぼーやの風船配布)

震災以降、救急救命活動に対する関心が高まっておりますが、救急時には「速やかな119番通報」と「適切な応急手当」が大切です。万が一の際は誰もが適切に対応できるように、日ごろからAEDの設置場所や応急手当の方法などについてご確認いただきたいと思います。



(心肺蘇生法実技講習の様子)

※ 実施団体

気仙沼・本吉地域広域行政事務組合消防本部、気仙沼市献血推進協議会、社団法人気仙沼市医師会、気仙沼地区地域医療委員会、宮城県気仙沼保健所

「動物ふれあい教室」の開催

(気仙沼保健福祉事務所)

10月2日(火)、気仙沼市立小原木保育園に小原木保育園・東中才保育所・くぐなり保育所の園児たちが集まり、3保育所合同で動物ふれあい教室を開催しました。

この行事は子供たちが適切な動物の取り扱いを学ぶとともに、動物愛護の精神を涵養することを目的に実施しています。今回は富谷町にある「宮城県動物愛護センター」のウサギ・モルモット・子犬たちが気仙沼市(唐桑町)までやってきました。

動物に触れたり、抱いたりする時の注意点が職員から説明された後、グループに分かれて動物たちとのふれあいとウサギ・モルモットへの餌やりを体験しました。また、最後には動物に触れた後には正しく手洗いすることを、実際に手を洗って体験しました。

東日本大震災後は、なかなか保育園で行事を組

めなかったとのことでしたが、子供たちは積極的に動物とふれあい、「暖かかった」、「ふわふわだった」とはしゃいでいました。将来にわたって動物を大切にすることを育んでくれればと思います。



(動物ふれあい教室の様子)

前へ・未来へ、地域農業担い手セミナーの開催

(気仙沼地方振興事務所農林振興部)

気仙沼地方振興事務所・本吉農業改良普及センター等の主催による「前へ・未来へ、地域農業担い手セミナー」が開催(11月13日)されました。

これは、より危機的で深刻な状況となっている地域農業について、今後どうすればいいのか、大切なことは何か、復興・再生へ、地域農業がキラめくための一助として行われました。

始めに宮城県農業公社の高嶋氏から、「人・農地プランの推進に向けて」と題し講話をいただきました。経営再開マスタープラン作成に向けてのポイントや課題等について、具体的にわかりやすく説明をいただきました。次に、東北大学大学院農学研究科の伊藤教授から、「再生へ 地域農業がキラめくために ~誰のため、何のために、何をなすべきか~」と題し基調講演をいただきました。教授からは、農業経営を取り巻く環境変化やこれからの地域営農のあり方、当地域の農業がキラめくための大切な視点等について御指導をいただきました。



(セミナーの様子)

「特別農林漁家民宿」&「おもてなし向上」

研修会の開催

(気仙沼地方振興事務所農林振興部)

気仙沼・南三陸地域では、教育旅行を中心としたグリーン・ツーリズムを推進していますが、更なる都市住民等との交流機会の増大や地域活性化につなげるため、「特別農林漁家民宿」制度の理解を深めるとともに、地域食材の魅力やおもてなしの向上を目的とした研修会が10月25日に開催されました。



(研修会の様子)

始めに、県農村振興課の担当者から、「特別農林漁家民宿制度の概要」についての説明を受けるとともに、気仙沼保健所の担当者からは、「旅行業法に基づく許可の概要」について説明を受けました。

続いて、『「おもてなし向上ミニ料理講習会」～おいしさアップ・笑顔もアップ～』と題し、鳴子温泉「大正館」の料理長である矢内信孝氏による料理講習会を開催しました。

矢内料理長から、「おもてなし料理は、身近にある食材を『おいしくなあれ』と心を込めてつくることが大切であることを教えていただきました。

参加者からは、「特別農林漁家民宿の開設を今後検討したい」、「今日習った料理をお客さまが来た際にはつくってみたい」などの声があり、有意義なものとなりました。



(料理講習会の様子)

新たな観光拠点が気仙沼市に誕生 (気仙沼地方振興事務所農林振興部)

10月13日(土)気仙沼市上東側根において、関係者約60名が参加し、新しい鹿折金山資料館の落成式が開催されました。



(落成式のテープカット)

この鹿折金山資料館は、以前からあった資料館が老朽化したため、地元住民の要望を受けて、気仙沼市が近くに場所を確保し新築したものです。

建設費は1,700万円で、森林整備加速化・林業再生事業を導入して平成22年に着手し、東日本大震災を乗り越え今年6月に完成しました。

延べ床面積190平方メートル木造平屋建てで、四角錐の屋根に立方体の天窗が付いた個性的な建物で、天窗から光が入るため室内が明るさを確保できる構造となっています。

玄関を入ると吹き抜けのホールとなっているため開放感があり、資料展示室のほか、会議室や事務室・倉庫を備えています。

また、構造材や内装材には、地元の山から伐採し地元製材所で製材した木材をふんだんに使用しており、地域材の良さを感じられる施設となっています。

気仙沼市では、鹿折金山が奥州藤原氏の黄金文化を支えた歴史があることから、鹿折金山資料館を歴史的な観光拠点として活用することにしており、気仙沼地域の新たな観光資源として地元の期待が高まっています。



(鹿折金山資料館全景)

南三陸町歌津に農産物直売所 「みなさん館」がオープン！ (本吉農業改良普及センター)

南三陸町歌津の平成の森入り口付近に10月7日、農産物直売所「みなさん館」がオープンしました。店内には、町内の農・漁業者の顔写真とともに新鮮な農作物や魚介類の他、ワカメなどの海産品、手芸品などが並び、飲食スペースや工房スペースも設けられています。

オープン当日は、テープカットや餅まきで開所を祝い、新鮮なホタテ・サンマ焼きや豚汁、焼き肉なども安価で振る舞われ、町内外からの多くの来場者で賑わいました。

町内では、震災後初となる直売所の開所で、経済面や地域交流活動の活発化に大きな期待が寄せられています。

普及センターでは、保健所やみやぎ産業振興機構と連携してオープン前の接遇研修、食品衛生研修などを実施しており、今後も「みなさん館」の運営支援、加工品の技術向上支援などを行って

きます。



(オープン当日の様子)

ワカメの挟込み作業が行われています

(水産技術総合センター気仙沼水産試験場)

管内の各浜では養殖ワカメの挟込み作業が盛んに行われています。今年は猛暑の影響により海水温も高く推移したことにより、幼芽の生育に適した水温への低下が遅れ、例年より1ヶ月程遅い10月下旬からの挟込みとなりました。現在は、内湾向け早生系の挟込みが終盤を迎え、今後は外洋で養殖される晩生系を中心に12月中旬頃まで挟込み作業が行われ、年明けの2月には「新物の三陸ワカメ」の刈取り・流通が始まる見込みです。



(成長したワカメ幼芽)

震災後二期目を迎える今期の生産量は、漁業者の懸命な努力や様々な支援措置、ボランティアの協力により震災前の水準を目標に懸命に作業中です。漁船や資機材納入の遅れや地盤沈下に伴う岸壁使用の制約など問題は残りますが、復旧・復興のリードオフマンとして、他の養殖種を牽引した養殖ワカメの完全復活に皆大きな期待を寄せています。

当水産試験場では、浜でのワカメ採苗や育苗の

現地指導やワカメ育苗・芽出し時における、水温や栄養塩等の状況について養殖通報として漁業者へ情報発信しています。



(岸壁が利用できず船上で行われた挟込み作業)

被災した漁船や水産施設の完成が相次いでいます

(気仙沼地方振興事務所水産漁港部)

管内では、東日本大震災で数多くの漁船や水産業共同利用施設等が被災しました。

これら被災した漁船や施設等が国の施設整備事業を活用するなどして完成が相次いでいます。

10月に完成した気仙沼漁業協同組合の製氷貯氷施設は、気仙沼商港岸壁の背後地に地上5階建てで、能力は製氷が日産110トンで、3,700トンの氷が貯蔵できるようになりました。気仙沼地域の製氷・貯氷能力は震災前の水準に回復し、今後一層の水揚げ増が期待されます。

漁船の竣工では、第五八幡丸(遠洋まぐろ延縄漁船439トン)が10月9日、第十一光洋丸(さんま漁船199トン)が10月29日に進水式が行われました。進水式では餅まきも行われ新船の完成を祝いました。



(第十一 光洋丸の進水式)

沿岸漁業では、南三陸町志津川旭ヶ浦に完成し

た宮城県北部施設保有漁業協同組合のかき共同処理場の落成式が10月4日に行われました。この施設は志津川地区で被災した3施設を統合して整備したもので、60人分のカキ剥き作業スペースを要しています。この施設を利用し、地元の安全で美味しいカキが消費者に提供できるようになりました。

この他にも、唐桑地区のカキ処理場や歌津地区のワカメ作業場が建設中であり、生産基盤の復旧が着実に進んでいます。



(完成した志津川カキ共同処理場)

平成24年度第33回「少年の主張」 気仙沼・本吉地区大会の開催について (気仙沼地方振興事務所総務部)

平成24年度第33回「少年の主張」気仙沼・本吉地区大会が平成24年9月11日(火)、気仙沼市立気仙沼中学校(体育館)を会場として開催されました。

当大会では、気仙沼・本吉地区の各中学校を代表して各校1名ずつ計16名が発表者となり、会場校の全生徒さんやご参集いただきましたご来賓、ご父兄等約400名の前で、それぞれの熱い思いを堂々と発表いたしました。

それぞれの発表者は、震災を乗り越え夢に向かって頑張ろうとする強い思いなど日常考えている自分の意見を精一杯に、熱く語りかけ、会場で聴いているみなさんに大きな感動と勇気を与えてくれました。

その発表内容はもそれも素晴らしいのですが、審査の結果、最優秀賞には気仙沼市立唐桑中学校(3年生)の鈴木 菜々さんが選ばれ、当地

区を代表して県大会に出場することになりました。

大会を終え、持てる力を出し切った発表者全員のすがすがしい若者らしい表情が印象的でした。

なお、県大会に出場した鈴木 菜々さんは、その実力を遺憾なく発揮され、優秀賞の荣誉に輝きました。



(大会終了後の集合写真)

気仙沼・南三陸復興スタンプラリー開催中 (気仙沼地方振興事務所地方振興部)

平成24年11月10日(土)から平成25年2月11日(月)までの約3ヶ月間、気仙沼・南三陸復興スタンプラリーを開催しています。

これは、平成25年4月～6月まで開催される仙台・宮城デスティネーションキャンペーンを見据え、気仙沼市と南三陸町に観光客を呼び込み、当地域内における観光客の域内流動促進を目的として実施するものです。

管内には、仮設商店街や観光案内所など9ヶ所のチェックポイントを設置し、そこでスタンプラリーの台紙(応募用紙)を入手し、3ヶ所でスタンプを集め、当所へ郵送するだけでスタンプラリーに参加することができます。応募者の中から抽選で30名様に気仙沼市又は南三陸町の特産品をプレゼントします。

気仙沼・南三陸だよりをご覧ください。是非、お知り合いの方にお声がけください。



(スタンプラリーに使用するスタンプ)

「みちびき地蔵堂」が再建されました。

(気仙沼地方振興事務所地方振興部)

気仙沼大島には「みちびき地蔵」という地蔵があり、昔話では、翌日亡くなる人の魂が極楽浄土に導いてもらうため、地蔵に挨拶に来ると伝えられてきましたが、東日本大震災による大津波で「みちびき地蔵」が流失してしまいました。

津波の恐ろしさを伝えたこの昔話は、かつてテレビ番組「まんが日本昔ばなし」で放映されたことがあり、震災後、インターネットの動画投稿サイトを通じ、海外でも話題になりました。

気仙沼大島観光協会では、「みちびき地蔵」を再建しようと絵本を製作し、その売り上げを活用することで再建を目指してきました。

地元業者が多忙で、なかなか再建が進みませんでしたが、地元の新聞社を通じて事情を知った京都府綾部市の有志の協力により、募金等の支援活動が行われ、また、現地の宮大工により地蔵堂が再建され、10月25日(木)に気仙沼大島でみちびき地蔵堂の入魂式と落成式が行われました。

みちびき地蔵は気仙沼大島の復興のシンボルのほか、新たな観光資源としての役割が期待されます。



(みちびき地蔵堂)

民間投資促進特区(ものづくり産業・IT産業・農業)

の申請受け付け中です

(気仙沼地方振興事務所地方振興部・農林振興部)

地方振興部において民間投資促進特区指定事業者の申請を受け付けております。

民間投資促進特区とは、指定業種(※)の事業者の方々が各市町村で定めている復興産業集積地域にて、復興に寄与する事業(新規投資や被災者雇用等)を行い、県又は市町村の指定を受けることにより、税制の特例を受けることができる優遇制度です。

11月16日現在、指定件数は気仙沼市が16件、南三陸町が3件となっており、地方振興部及び農林振興部では管内産業のさらなる復興を支援すべく、特区制度の活用を推進しております。

※指定業種

○ものづくり産業

- ・自動車関連産業
- ・高度電子機械産業
- ・食品関連産業
- ・木材関連産業
- ・医療・健康関連産業
- ・クリーンエネルギー関連産業
- ・航空宇宙関連産業
- ・船舶関連産業

○IT産業

- ・ソフトウェア業、情報処理・提供サービス業
- ・インターネット付随サービス業
- ・コールセンター
- ・BPO オフィス
- ・データセンター
- ・設計開発関連業
- ・デジタルコンテンツ関連産業

○農業

- ・農業関連